

シネンシス系スターチス「キノセリーズ」における主茎摘芯の効果

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成17年度試験成績概要

1 部門名 花き―スターチス―品種・整枝剪定
分類コード 05-15-01080000

2 担当者 江川孝二・室谷朝子・佐藤正武

3 要 旨

シネンシス系スターチス品種は、収穫期が後半になるほどボリュームを低下しやすく S 級品が大半を占める。そこで品質向上を目的に主茎摘芯の効果について検討した。

(1) 「キノセリーズ」は主茎が旺盛に生育しやすく、分枝や二番花との品質格差が特に激しい。そこで定植一年目の「キノセリーズ」を用いて、主茎抽台後10cm到達時の摘芯と30cm時の摘芯処理が切り花品質と収量に及ぼす影響を検討した。

(2) 出荷規格の?級品（60cm以上）以上の株当たり本数は、10cm時摘芯句が最も多く計9本あり収穫量の3割を占めた。30cm時摘芯区と放任区では約4本であったが、放任区では2 L品が1本収穫できた。

(3) 以上のことから、定植一年目のシネンシス系スターチスでは、主茎を抽台10cm頃に基部で切除をすると S 級品が減少し収穫本数は減じるが、上位規格品の本数を増加させることができる。また主茎抽台後30cm頃の処理では S 級品ではあるが収穫本数が増加する。

4 その他の資料など